

张后贵 ● 主编

# 苏州旅游日语



苏州大学出版社  
Soochow University Press

# 苏州旅游日语

顾 问 荒木满  
主 编 张后贵  
副主编 高鹏飞 李东军  
编 委 高鹏飞 贺长青 冯逸彬  
李彩兰 李东军 张后贵



苏州大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

苏州旅游日语 / 张后贵主编. —苏州: 苏州大学出版社, 2015. 8

ISBN 978-7-5672-1448-4

I. ①苏… II. ①张… III. ①旅游指南—苏州市—日语 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 193779 号

书 名: 苏州旅游日语

主 编: 张后贵

责任编辑: 汤定军 杨 婷

策划编辑: 汤定军

封面设计: 刘 俊

出版发行: 苏州大学出版社(Soochow University Press)

社 址: 苏州市十梓街1号 邮编: 215006

印 刷: 苏州市正林印刷有限公司

网 址: www.sudapress.com

E-mail : tangdingjun@suda.edu.cn

邮购热线: 0512-67480030

销售热线: 0512-65225020

开 本: 787 mm×1 092 mm 1/16 印张: 17.75 字数: 440 千

版 次: 2015 年 8 月第 1 版

印 次: 2015 年 8 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978-7-5672-1448-4

定 价: 45.00 元

凡购本社图书发现印装错误,请与本社联系调换。服务热线: 0512-65225020



前

言

早在2004年，我就着手编写过一本介绍苏州的日文导游词。我在那之前的几年里做过兼职的日语导游，在兼职做导游期间，苦于找不到适合的日文版本导游词，当时市面上能见到的日文导游词要么过于陈旧，要么过于简单，都不能满足日语导游的需要，但是市场对它的需求却很旺盛。2004年，来苏州的日本游客达到18万人次，占来苏州的外国人总数的30%，占江苏的39%；2005年1月至9月，更是有多达16万的日本来客。于此同时，日本企业也云集苏州，来苏工作的日本企业员工和他们的家属也有数千人之众。因此，市场对日语人才的需求迅速增加，学习日语的学生人数也是爆发式增长。于是我就萌发了针对不断增长的市场需求编写一本日文版的介绍苏州园林和苏州文化的图书的想法。在那之后我便开始搜集资料、组织编写，于2010年完成了初稿，但是由于各种原因，一直没有集辑出版。

直到2012年，日语系要求开设一些有实用价值的新课。我在徐卫老师和王鼎老师的鼓励下，再次对2010年的初稿进行数据更新和内容扩充，增加了“旅游业”、“导游员”、“中国的酒”、“中国的茶”、“中国的菜”等相关内容。增加了旅游相关的内容后，改变了原先单纯介绍苏州园林的编写架构，已经初步具有旅游专业方面书籍的实质，于是更名为《苏州旅游日语》。

即便是这样改头换面，但是这本《苏州旅游日语》依然针对性很强，可以说真正是“苏州的”，拿到其他城市，可能利用价值就得大打折扣了。它的“针对性”不仅是局限于苏州，而且即使介绍苏州也不是面面俱到，也是具有很强的针对性。它不是囊括所有的景点，甚至连被认定为世界文化遗产的园林都没有照单全收，而是针对日本客人经常去的几个景点进行了比较详尽的介绍。本书不仅收录的旅游景点少，而且就是同一个景点内，也是有侧重点的。重点介绍的都是日本客人必去的，甚至是日语导游们经常走的线路景点。所以，同一景点内，有的浓墨重彩地介绍，有的只是寥寥几笔，有的干脆就是只字未提。为什么会这样呢？这也是从实际出发，有针对性地进行介绍。其中一个主要原因是，日本客人在苏州的逗留时间有限，更多的是走马观花，所以怎样在较短的时间内向客人介绍苏州，我们很难做到面面俱到，详尽地讲解，所以景点内的讲解就得有侧重点、有针对性；另一个原因是，苏州园林极其深奥，一幅楹联、一句题诗的背后都有

一段鲜为人知的历史，即使用汉语也难以详尽，何况是使用外语。所以，介绍的时候，就得做到详略有别、错落有致。

基于以上的事实，我将日本游客常去的苏州景点和苏州文化、中国文化尽可能地介绍进行详尽介绍。

本书采用日语编写，通篇采用敬体。这是充分考虑了导游职业的特点，敬体是必须的，所以就一步到位采用敬体写作了。为什么只用日文编写呢？市面上通用的导游词、教材基本上都是中日文对照式的。我们编写组考虑到能参加导游证考试或者是参加培训的人都有直接读懂日文的能力，即使有看不懂的地方，借助媒介很简单就能找到中文。

“中文导游词易得，日文导游词难寻”，这就是我用日文编写的初衷。补充单词部分的外来语大部分都附有英文，这也是考虑到现在的学生英文水平较高，附上英文后更便于记忆。

为采集最新的资料，捕捉最新的变化，本书中直接从因特网上搜索并下载的内容不少，基本上都注明了日期和出处。敬请大家理解。

本书编写过程中得到了徐卫老师、王鼎老师、贺长青老师、李彩兰老师的大力支持，在此一并表示感谢！

由于能力有限，不足之处在所难免，希望各位同仁不吝赐教。

**张后贵**

2015年7月



## 第一章 観光業 / 1

- 1.1 観光業の管理機関 / 1
  - 1.1.1 世界観光組織の概要 / 1
  - 1.1.2 世界観光組織ロゴ / 1
- 1.2 世界観光組織と中国 / 1
- 1.3 観光と旅行 / 2
- 1.4 観光業 / 2
- 1.5 観光資源 / 3
- 1.6 観光業の今昔 / 3
  - 1.6.1 古代観光業 / 3
  - 1.6.2 近代観光業 / 3
  - 1.6.3 現代観光業 / 4
- 1.7 中国観光業の発展史 / 5
  - 1.7.1 観光業の管理機関 / 5
  - 1.7.2 中国観光組織ロゴ / 5
  - 1.7.3 中国観光の日 / 6
  - 1.7.4 中国観光の日のロゴ / 6
  - 1.7.5 中国の観光資源 / 6
  - 1.7.6 中国の世界文化遺産 / 7
  - 1.7.7 観光地のランク付け / 7
  - 1.7.8 古代の中国観光業 / 9
  - 1.7.9 近代の中国観光業 / 11
  - 1.7.10 新中国の観光業 / 11
  - 1.7.11 中国人の日本旅行 / 17

## 第二章 ガイド / 18

- 2.1 ガイドの定義 / 18
- 2.2 中国旅行社の分類 / 18
- 2.3 ガイド資格試験 / 19
  - 2.3.1 ガイド資格試験の沿革 / 19
  - 2.3.2 ガイド試験の受験科目 / 20
- 2.4 ガイド証 / 20
  - 2.4.1 ガイド証の取得 / 20
  - 2.4.2 ガイド証の期限 / 21
- 2.5 ガイドの由来 / 21
  - 2.5.1 中国ガイドの発展振り / 21
  - 2.5.2 ガイドの分類 / 22
- 2.6 現地ガイドの仕事 / 22
  - 2.6.1 事前準備 / 23
  - 2.6.2 出迎え / 23
  - 2.6.3 市内までのご案内 / 24
  - 2.6.4 移動中の注意事項 / 24
  - 2.6.5 観光スポットでの注意事項 / 25
  - 2.6.6 ホテルの中 / 25
  - 2.6.7 見送りの日 / 25
- 2.7 イレギュラー / 26
- 2.8 ガイドとしての接客タブー / 28
- 2.9 好かれるガイド / 29
- 2.10 ガイドの身だしなみ / 29
- 2.11 ガイドの言葉遣い / 30

## 第三章 蘇州 / 32

- 3.1 蘇州の歴史 / 32
  - 3.1.1 「呉」の由来 / 32
  - 3.1.2 「蘇」の由来 / 32
  - 3.1.3 呉越春秋 / 33
- 3.2 蘇州古城の由来 / 35
- 3.3 蘇州の沿革 / 36
- 3.4 庭園の町 / 37
- 3.5 現在の蘇州 / 37
  - 3.5.1 新区、園区 / 37
  - 3.5.2 蘇州の評価 / 39

- 3.5.3 面積と人口 / 39
  - 3.5.4 行政区画 / 40
  - 3.5.5 気候と降雨 / 40
  - 3.5.6 蘇州の交通 / 41
  - 3.5.7 蘇州の教育 / 42
  - 3.5.8 東洋ベニス / 43
  - 3.5.9 地理位置 / 43
  - 3.5.10 物産 / 44
  - 3.6 観光資源 / 44
  - 3.7 蘇州の実績 / 46
  - 3.8 蘇州の高層ビル / 47
  - 3.9 蘇州の山 / 47
  - 3.10 蘇州の観光業 / 48
  - 3.11 魅力の蘇州 / 50
  - 3.12 蘇州の観光ロゴ / 51
- 第四章 虎丘山 / 52**
- 4.1 虎丘山の概説 / 52
  - 4.2 頭山門 / 54
  - 4.3 通路 / 55
  - 4.4 二山門 / 56
  - 4.5 憨憨泉 / 57
  - 4.7 仙桃石 / 58
  - 4.8 試劍石 / 58
  - 4.9 枕石 / 59
  - 4.10 貞娘墓 / 60
  - 4.11 孫武亭 / 61
  - 4.12 千人石 / 61
  - 4.13 二仙亭 / 62
  - 4.14 劍池 / 62
  - 4.15 別有洞天 / 63
  - 4.16 大雄宝殿 / 64
  - 4.17 仙人洞 / 65
  - 4.18 小吳軒 / 65
  - 4.19 可中亭 / 65
  - 4.20 双吊桶 / 66
  - 4.21 虎丘塔 / 66



- 4.22 致爽閣 / 68
- 4.23 第三泉 / 68
- 4.24 唐寅 / 68

## 第五章 寒山寺 / 70

- 5.1 寒山寺の概説 / 70
- 5.2 和合碑 / 72
- 5.3 障壁(目隠しの塀) / 73
- 5.4 山門 / 74
- 5.5 前庭 / 75
- 5.6 寒拾遺踪 / 76
- 5.7 大雄宝殿 / 77
- 5.8 寒拾殿 / 79
- 5.9 鐘楼 / 81
- 5.10 碑廊 / 82
- 5.11 『楓橋夜泊』 / 83
- 5.12 弘法堂 / 84
- 5.13 法堂 / 85
- 5.14 普明塔院 / 86
- 5.15 新鐘楼 / 87
- 5.16 釈迦様 / 88
- 5.17 弥勒 / 89
- 5.18 羅聘 / 89
- 5.19 俞樾 / 90
- 5.20 井上陳政 / 90
- 5.21 空海 / 91
- 5.22 『蘇州夜曲』 / 91

## 第六章 蘇州庭園 / 92

- 6.1 庭園の分類 / 92
- 6.2 蘇州の庭園 / 92
- 6.3 蘇州庭園の構造 / 93
  - 6.3.1 築山 / 93
  - 6.3.2 水 / 94
  - 6.3.3 建物 / 95
  - 6.3.4 植物 / 95
  - 6.3.5 動物 / 96
- 6.4 蘇州庭園の造園法 / 96

## 第七章 拙政園 / 97

- 7.1 拙政園の概説 / 97
- 7.2 門 / 99
- 7.3 東園 / 99
- 7.4 綴雲峰 / 100
- 7.5 蘭雪堂 / 101
- 7.6 芙蓉樹 / 101
- 7.7 天泉亭 / 103
- 7.8 秫香館 / 104
- 7.9 中部 / 105
- 7.10 倚虹亭 / 106
- 7.11 梧竹幽居 / 106
- 7.12 枇杷園 / 107
- 7.13 遠香堂 / 107
- 7.14 小飛虹 / 109
- 7.15 小滄浪 / 109
- 7.16 香洲 / 110
- 7.17 西部庭園 / 111
- 7.18 鴛鴦庁 / 111
- 7.19 十八曼陀羅花館 / 112
- 7.20 宜兩亭 / 113
- 7.21 水廊 / 113
- 7.22 留聽閣 / 114
- 7.23 笠亭 / 114
- 7.24 与誰同坐軒 / 115
- 7.25 浮翠館 / 115
- 7.26 盆栽園 / 116
- 7.27 荷花四面亭 / 116
- 7.28 雪香雲慰亭 / 118
- 7.29 関連情報：北寺塔 / 118
- 7.30 拙政園と大観園 / 119
- 7.31 拙政園と曹雪芹 / 119

## 第八章 留園 / 121

- 8.1 留園の概説 / 121
- 8.2 門庁 / 123
- 8.3 通路 / 123

- 8.4 中部 / 124
- 8.5 東部 / 124
- 8.6 五峰仙館 / 125
- 8.7 彌猴峰 / 127
- 8.8 汲古得修綆 / 127
- 8.9 鶴所 / 128
- 8.10 還我讀書齋 / 128
- 8.11 石林小院 / 129
- 8.12 東園の一角 / 130
- 8.13 林泉耆碩之館（鴛鴦館） / 130
- 8.14 冠雲峰 / 131
- 8.15 冠雲樓の魚化石 / 132
- 8.16 北部 / 133
- 8.17 西部 / 133
- 8.18 明瑟樓 / 134
- 8.19 涵碧山房 / 134
- 8.20 爬山廊 / 135
- 8.21 聞木犀香軒 / 135
- 8.22 大假山、可亭 / 136
- 8.23 青石幢 / 136
- 8.24 濠濮亭、印月峰灵壁石 / 137

## 第九章 西園寺 / 138

- 9.1 西園寺概説 / 138
- 9.2 天王殿 / 139
- 9.3 大雄宝殿 / 139
- 9.4 羅漢堂 / 139
  - 9.4.1 第一陣 / 139
  - 9.4.2 第二陣 / 140
  - 9.4.3 第三陣 / 141
- 9.5 放生池 / 141
- 9.6 仏像知識 / 142
  - 9.6.1 華嚴三尊像 / 142
  - 9.6.2 三聖像 / 142
  - 9.6.3 仏様 / 142
  - 9.6.4 如来 / 142
  - 9.6.5 菩薩 / 142

- 9.6.6 明王 / 143
- 9.6.7 天 / 143
- 9.6.8 羅漢 / 144
- 9.6.9 仏像の種類 / 144

## 第十章 古城門 古町 / 145

- 10.1 盤門 / 145
  - 10.1.1 盤門の概説 / 145
  - 10.1.2 城楼 / 146
  - 10.1.3 呉門橋 / 147
  - 10.1.4 瑞光塔 / 147
- 10.2 七里山塘 / 148
- 10.3 平江街 / 151
  - 10.3.1 平江街の概説 / 151
  - 10.3.2 景觀石 / 151
  - 10.3.3 碑亭 / 151
  - 10.3.4 思婆橋 / 152
  - 10.3.5 董氏義莊 / 152
  - 10.3.6 平江客棧 / 152
  - 10.3.7 鈕家巷口 / 153
  - 10.3.8 肖家巷口の雪糕橋 / 153
  - 10.3.9 昆劇博物館 / 154
  - 10.3.10 積慶橋口 / 154
  - 10.3.11 礼耕堂 / 154
  - 10.3.12 青石橋 / 155
  - 10.3.13 南石子街 / 155
  - 10.3.14 小新橋 / 155
  - 10.3.15 懸橋巷 / 155
  - 10.3.16 通利橋 / 156
  - 10.3.17 胡廂使橋 / 156
- 10.4 觀前街 / 157

## 第十一章 滄浪亭 獅子林 網師園 環秀山莊 / 159

- 11.1 滄浪亭 / 159
  - 11.1.1 滄浪亭の概説 / 159
  - 11.1.2 碑記亭 / 160
  - 11.1.3 主山 / 160

- 11.1.4 滄浪亭 / 160
- 11.1.5 仰止亭 / 161
- 11.1.6 面水軒 / 161
- 11.1.7 復廊 / 161
- 11.1.8 透かし窓 / 161
- 11.1.9 明道堂 / 161
- 11.1.10 印心石屋 / 162
- 11.1.11 看山楼 / 162
- 11.1.12 五百名賢祠 / 162
- 11.1.13 御碑亭 / 163
- 11.2 獅子林 / 163
  - 11.2.1 獅子林の概説 / 163
  - 11.2.2 燕誉堂 / 165
  - 11.2.3 小方厅 / 165
  - 11.2.4 九獅峰 / 165
  - 11.2.5 築山 / 166
  - 11.2.6 真趣亭 / 166
  - 11.2.7 花籃厅 / 167
  - 11.2.8 御碑亭 / 167
  - 11.2.9 回廊 / 167
- 11.3 網師園 / 167
- 11.4 環秀山莊 / 170
- 11.5 宝帯橋 / 171

## 第十二章 伝統祝日と祭り / 172

- 12.1 元宵節 / 172
- 12.2 清明節 / 173
- 12.3 端午の節句 / 174
- 12.4 南浩街軋神仙 / 176
- 12.5 曝書翻經 / 177
- 12.6 雷齋素 / 177
- 12.7 七夕 / 178
- 12.8 中元節 / 179
- 12.9 中秋節 / 180
- 12.10 重陽節 / 182
- 12.11 冬至 / 183
- 12.12 お正月 / 184

- 12.13 守歳 / 187
- 12.14 年始回り / 187
- 12.15 結び / 188

### 第十三章 科挙試験と蘇州 / 189

- 13.1 科挙試験の始まり / 189
- 13.2 科挙試験の流れ / 189
- 13.3 蘇州の壮元 / 190
- 13.4 壮元輩出の学習雰囲気 / 191
- 13.5 読書の町 / 192
- 13.6 蘇州籍の院士 / 192

### 第十四章 中国の茶と蘇州の茶 / 194

- 14.1 中国の茶 / 194
- 14.2 蘇州人と茶 / 195
- 14.3 蘇州の茶 / 196
  - 14.3.1 虎丘茶 / 196
  - 14.3.2 碧螺春 / 197
  - 14.3.3 碧螺春の伝説 / 197
- 14.4 『茶経』 / 198
  - 14.4.1 『茶経』と日本 / 199
  - 14.4.2 日本の お茶話 / 199
  - 14.4.3 抹茶の日本渡航 / 200
- 14.5 『茶経』の作者：陸羽 / 201

### 第十五章 中国の酒と蘇州の酒 / 205

- 15.1 中国人の酒好き / 205
- 15.2 中国の酒の歴史 / 205
- 15.3 中国酒の種類 / 207
- 15.4 蘇州の酒 / 207
  - 15.4.1 冬醸酒 / 207
  - 15.4.2 冬至夜 / 208
- 15.5 日本人と酒 / 208
  - 15.5.1 日本酒の起源 / 208
  - 15.5.2 中日両国の飲酒習慣 / 209
  - 15.5.3 冠婚葬祭のお酒 / 210

第十六章 中華料理と蘇州料理 / 211

16.1 中華料理 / 211

- 16.1.1 山東料理 / 211
- 16.1.2 江蘇料理 / 211
- 16.1.3 浙江料理 / 212
- 16.1.4 安徽料理 / 212
- 16.1.5 四川料理 / 212
- 16.1.6 湖南料理 / 213
- 16.1.7 辛い料理好き / 214
- 16.1.8 福建料理 / 215
- 16.1.9 広東料理 / 216

16.2 蘇州料理 / 218

- 16.2.1 魚のお国 / 218
- 16.2.2 食材豊富 / 219
- 16.2.3 交通、政治の要所 / 219
- 16.2.4 盛んな飲食業 / 219
- 16.2.5 船料理 / 220
- 16.2.6 蘇州料理の特徴 / 220
- 16.2.7 蘇州料理の老舗 / 221

第十七章 昆劇 評弾 / 224

17.1 吳方言 / 224

17.2 昆劇の概説 / 224

17.3 昆劇の沿革 / 224

- 17.3.1 代表作『牡丹亭』 / 226
- 17.3.2 代表作『桃花扇』 / 227

17.4 蘇州評弾 / 228

付録1. 閩八仙人の効用 / 232

付録2. 観光業用語 / 233

付録3. 蘇州ホテルリスト / 235

付録4. ホテル用語 / 236

付録5. 客室施設用語 / 238

付録6. 中日韓三カ国主要な航行会社と略号 / 240

付録7. 航空用語 / 241

付録8. 蘇州買い物用語 / 244

付録9. 交通関係用語 / 246

- 付録 10. 植物関係用語 / 248
- 付録 11. 花の名前 / 249
- 付録 12. 食材用語 / 250
- 付録 13. 海産物及び魚類用語 / 252
- 付録 14. 淡水魚用語 / 253
- 付録 15. 中華料理の包丁捌き (ほうちょうさばき) / 254
- 付録 16. 中華料理用油用語 / 255
- 付録 17. 中華料理の調理法 / 256
- 付録 18. 検疫対象の伝染病 / 257
- 付録 19. 箸使いのタブー / 258
- 付録 20. 中国の無形文化遺産リスト / 259
- 付録 21. 各国世界文化遺産ランキング (トップ 25) / 260

参考文献 / 261



# 第一章 観光業

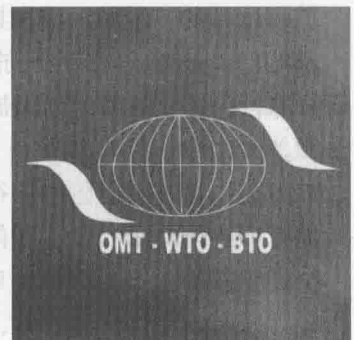
## 1.1 観光業の管理機関

### 1.1.1 世界観光組織の概要

1925年ハーグにおいて観光の分野における国際協力を促進することを目的として非政府機関である公的旅行機関国際連盟 (International Union of Official Travel Organizations: IUOTO) が設立されました。その後、国際観光が急速に発展し、途上国から、観光分野において、いろいろと要望があり、その要望に応えるように、IUOTOを改組して一層強力な政府機関を設立しようという動きが高まり、1970年9月メキシコでのIUOTO臨時総会において、世界観光機関憲章が採択され、1975年において、世界観光組織 (World Tourism Organization、略称WTO) が本格的に発足しました。2003年、WTOは、同総会及び国連総会決議により、国連専門機関となりました。(略称をUNWTOに変更)

### 1.1.2 世界観光組織ロゴ

1980年、世界観光組織は9月27日を世界観光の日 (World Tourism Day) と決めました。2003年12月に国際連合の専門機関となりました。2012年8月現在、155カ国が加盟しています。UNWTOは、観光分野の世界最大の国際機関です。



## 1.2 世界観光組織と中国

1971年10月25日、国際連合第26回総会で、台湾が国際連合から除名され、中華人民共和国が国際連合に加盟すると同時に、常任理事国となりました。それを皮切りに、中国は活発に各組織に加盟するようになってきました。

1975年5月、中華人民共和国が世界観光組織に代表として認められ、1983年10月5日、世界観光組織の第五回会議で、中国が正式会員となり、106カ国目の会員になりました。1987年、第七回会議で、執行委員会の委員に選ばれました。